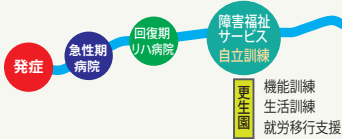


## 社会参加に向けての道のり



高次脳機能障害の方が新規就労、復職、社会参加を目指す道のりでは、障害福祉サービスの自立訓練事業を利用するのがひとつの方法です。編集部では、更生園でおこなっている自立訓練のプログラムや支援内容、誰でも使える支援ツールの紹介をします。またスタッフに「高次脳機能障害をお持ちの方に、どんなことを意識して支援していますか?」と質問してみました。

## 更生園ってどんなところ?



障害があってもその人らしく地域で暮らして学び、働くために、自立(自律)することを旨とする人に、社会リハビリテーションを柱として、地域生活移行支援・就労移行支援を行います。個別に作成されたプログラムに基づき、リハビリ、看護、福祉、就労、パソコン、学習等の様々な専門スタッフがチームを組んで支援します。また、高次脳機能障害のある方に特化した支援も行っています。さらに、短期入所により地域生活をえます。

## ここがポイント! 利用者の7~8割が高次脳機能障害をお持ちの方!

更生園は3つの事業を行っていますが、身体障害を合併している方も含めて利用者の7~8割は高次脳機能障害を有しています。そのため、更生園での支援は高次脳機能障害の特性を理解し利用者の個性に応じた支援を展開しています。その中でも「障害への気づき」を深めることは社会参加の上で最も重要な課題であり、グループワークをはじめとする各種プログラム、個別面談及び24時間の生活といった様々な場面でのことを意識した支援を提供しています。

## ここがポイント! 入所しながら自立訓練を受けられる!

自立訓練は日中活動が中心ですが、入所しながら訓練等を実施することが効果的であると認められる方は入所して訓練が受けられます。見えない障害といわれる高次脳機能障害は本人も見えにくいのが特徴です。同じ障害をお持ちの方との集団生活の中で交流を通して気づきが深まります。

## ここがポイント! 専門職がいる!

理学療法士と作業療法士が専従で配置され、ともに身体機能訓練、認知リハビリ訓練、日常生活動作訓練、移動自立訓練などを行い、地域移行時には家屋評価・指導や環境整備を行っています。その他、作業療法士は家事動作訓練や就労移行支援にも携わっています。理学療法士と作業療法士に加え、心理師も心理教育のグループ活動や面談などの支援を行い、その中で「障害の気づき」の促進を図っています。

本日行う作業を学生と確認する野田先生

### ガーデニングプログラム

千葉大の先生、学生と一緒にグループワーク。目的は作業を通して集中力・持続力の向上、協働作業を通して、対人スキルやコミュニケーションスキルの向上。自分で選択した作業を行い、作業に対する責任感の向上を目指します。

■プログラムを運営するにあたって苦労していることはありますか?  
障害が重度化している傾向もあり、出来る作業が少なくなっている中で、利用者さんかどんな作業ができるか見つかることです。

■効果は出ていますか?  
参加している利用者さんの作業能力に応じて、ある人には「道具を使ってこれをやってね」ある人には「倉庫から道具を持ってきてね」と言います。そのうち「何が必要?」と聞いかけると道具を探せるようになります。また利用者さんの中でリーダーシップを取る人が必ず出てきます。学生がボランティアであることで良い刺激になります。同じ作業をしていて「学生ができてなぜ自分ができないんだろう」と自己意識が出てきたり、「学生は就職をしてくいて、自分もステップアップしなくてはいけないのかな」と思う人も出てきます。

■学生さんはボランティアで来ているんですか?  
全員ボランティアです。遠くから来ている学生がいるので毎回参加者をコントロールする苦労もあります。参加している学生はボランティア経験がキャリアとなり、就職活動のメリットとなっているようです。

▲利用者の中には農業方面に就職した方も

## 生活訓練 通称【スキルコース】

日常生活は問題なく送れるが高次脳機能障害の影響で仕事が入りず、人との関係づくりが苦手な方に対して自身の障害を理解し社会生活が向上するよう社会リハビリテーションを提供します。

生活訓練は利用者全員が高次脳機能障害の方であるため、高次脳機能障害の特性に配慮した方法やプログラムでの支援を行い、利用者の「障害の気づき」と「社会生活力」を高めています。

具体的には「高次脳生活パス」をはじめとする情報の「見える化」を行い、利用者が理解しやすく目標がぶれないための工夫をしながら、「グループワーク」での対人交流や検討、「作業活動」での学習や体験などを行っています。プログラムのひとつには記憶障害の利用者のためのメモリーグループがほぼ毎日あり、メモリーノート使用の定着を図っています。



▲スキルコースの心理グループ

## チェック! 誰でも使える支援ツール 生活パスシート

高次脳機能障害を持つ方の多くは、目標を見失ってしまったり、今やっていることがわからなくなる特徴が見られます。そこで当事者が自分で決めた目標を達成するまでのプロセス(必要な短期目標)を段階的に表にした自己チェックシートを作りました。

高次脳生活パスで Good を

利用者さんがわかりやすい!

支援者から伝えやすい!

生活パスシートを私に使用したい方は私に連絡ください!

課題を共有しやすい!

関谷サービス管理責任者 自立訓練

## 機能訓練

機能訓練事業の利用者は身体障害の他に、高次脳機能障害を有する方も多くみられます。本人は身体機能面に目を奪われがちですが、高次脳機能障害面を理解した支援が必要となります。身体機能訓練はもちろん、社会参加のために、身体障害があっても身の回りのことを自力で出来る力を高めたり、地域で安全に過ごし、行きたい場所に自由に行ける力を身につけられるよう理学療法士や作業療法士が「外出訓練」を積極的に行っています。



▼職リハの図書実習



▲職リハの模擬職場の様子

## 就労移行支援 通称【職リハ】

身体障害のある方や高次脳機能障害と診断された方が一般企業や特例子会社等への就職や復職等に向けて、評価・訓練、事業所内や企業における実習・職場探検、復職の場合は復帰条件の調整などの支援を行います。更に新規就職・復職後の就労定着のための支援も行っています。更生園内の訓練は模擬職場であり、その中で「報・連・相」をはじめとするコミュニケーション力を高めています。また、利用者が高次脳機能障害をカバーするための代償手段の活用(手順書の作成・活用、業務日誌記入、メモリーノート活用、確認行動の徹底、易疲労への対応等)を身につけるトレーニングを行い、グループワークでの振り返りや対人交流も行っています。



「カガミを見て」セルフチェックのこの方法としています

吉田サービス管理責任者 就労移行支援

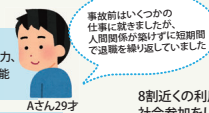
## 本人とゴールを共有していること

どういう働き方をしたいか、ゴールを共有し、同じ方向を向いて支援しています。利用者さんに気づいてもらうため、きちんと伝えるためにツール(文章・動画)などを工夫しています。

## 利用者は退園後こんなことをしています

### Aさんの場合

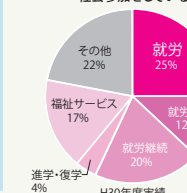
26才の時、自動車事故で頭部外傷。「仕事が入りず」更生園入所。記憶、注意力、感情コントロール(イラつき)の高次脳機能障害があり、精神福祉手帳2級。



目標は「就職!一人暮らし!」

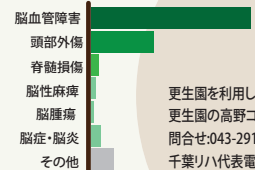
入所しながら生活訓練を1年5か月。メモリーノートを使いこなせるようになった。イライラの原因がわかり対処が可能になった。職場実習に行き働くための構えが身に着いた。その後、就労移行支援に自宅から1年通所。新規就労し、単身生活。現在、就労継続中。

8割近くの利用者が社会参加をしている



## 入園相談、見学は電話相談で!

こんな疾患を持った方が利用しています



更生園を利用したい方、ご相談は電話にて 更生園の高野コーディネーターがご案内いたします。 問合せ:043-291-1831(代) 千葉リハ代表電話から「更生園」に繋がります。

障害者支援施設 更生園紹介) 社会参加に向けての道のり

千葉リハはリハビリテーション医療施設(病院、児童発達支援センター、障害者支援施設)更生園)ならびに補装具製作施設をもつ県内唯一の総合リハビリテーションセンターです。また千葉県の高次脳機能障害支援拠点機関でもあることから、多くの高次脳機能障害を有する方が利用しています。今号では高次脳機能障害者の自立や社会参加に向けて取り組んでいる障害者支援施設更生園の紹介をします。